

## 「若者が住みたい青森県」をテーマに宮下知事と総合建築科の学生が#あおばなを開催しました

令和6年7月17日(水)に宮下知事が来校し、本校の総合建築科2年生と対話集会「#あおばな」を開催いたしました。4名の学生が自己紹介をした後、「現在学んでいること」「就職」について話し、「若者が住みたい青森県」をテーマに、自分が考えていることや実際の取り組んだ体験を紹介しながら、宮下知事と意見交換をしました。



### 今回の「#あおばな」では、総合建築科2年生の4名の学生が宮下知事と意見交換をしました！



青森県立  
柏木農業高等学校卒業  
中西 大翔

私は生まれた頃から黒石市で生活していますが、地元から若い人たちが離れず定住していくためには、若い世代が積極的にまちづくりに参加することが重要だと考えています。  
地元の黒石市では、弘前大学や地域の方と連携・協力しながら、黒石市特有の「こみせ通り」の活用や伝統的な建造物をうまく活かして観光資源としています。特にどの自治体でも問題となっている空き家をそのまま活かし、建物の内部はどの世代にも利用しやすいようにカフェ等にリフォームして、新たな賑わいを創出して快適で住み良い街づくりに取り組んでいるので、機会があれば地域活動に参加してみたいです。



柴田学園大学付属  
柴田学園高等学校卒業  
長尾 有紗

私は地元である青森県は四季がはっきりしており、それぞれの季節には個性的な風景や行事があるので好きです。地元の弘前市は歴史や自然が身近にあるまちでもあり、大学や専門学校も多いので若い人たちも多く、住んでいて不便をあまり感じることはありません。  
また、以前、弘前れんが倉庫美術館の広場で地域の方々や地元の良さを発信する活動にも参加したことがあるので、もっと地元の魅力を若い人たちに伝え、青森県で就職し生活することのメリットを知ってほしいと思います。



柴田学園大学付属  
柴田学園高等学校卒業  
尾崎 伶奈

地域おこし協力隊のような方々に学校と地域をつなぐ橋渡し役となってもらい、地域のまちづくりに携わる方の講義やフィールドワークを実施すると、今まで見えてこなかった地元の良さに気づくことになりました。実際に昨年の授業で弘前大学の北原先生の講義を受け、黒石市のまちづくり事例の講義を受けてから地域活動をされている方と意見交換をすることができたので私自身もこのことに気づきました。進学や就職で地元を離れる高校生にアプローチをしながら、「青森県っていいところだな、将来また戻ってきたいな」と思う生徒を増やし、高校卒業後も関係性を維持しながら、青森県に戻ってこられるシステムづくりができればいいと思います。



青森県立  
むつ工業高等学校卒業  
高田 純希

地元むつ市から離れて1年と数ヶ月が経ちましたが、住んでいたむつ市から離れてみて、初めて地元のよさが分かりました。  
住みたいと思う地域は世代や考え方によって異なりますが、私の住む下北半島には、ジオパークや釜ヶ崎山からの夜景など、他の人に自慢できる自然豊かな地域となっています。また、夏秋いちごの栽培やカーボンマイナスのトマト工場など、新しいことをはじめやすい土地柄だと思うので、若い人たちの雇用の場が少しでも多くあればいいと思います。



### 県民対話集会「#あおばな」



<「#あおばな」のコンセプト>  
青森の未来について話をしよう  
青森の話を花を咲かせよう



4名の代表の学生のほかに参加した全学生が知事との対話を通じて、知事の熱い思いやこれからの青森県の未来について、お互いに意見交換をすることができたので、たいへん貴重な場となり有意義な時間を過ごすことができました。

今回の「#あおばな」をきっかけに、知事から話された言葉である「みんなで考えることに意味がある」ということを意識しながら、多くの方々と意見を交わして『「青森新時代」への架け橋』を築いて欲しいと思います。